



松家集

十五

惠比毛
世寸

共十六冊



松葉名前和歌集第十五

惠比毛世

會余賀市

河内

藻塩

懷中

花梅白の浦ありはすふれきりて社れ



惠美行世

駿河

名寄長寄

なご船ふととよゆりるふみ乃る息と

後頼

愛智川

近江

藻塩

名寄

ふら川よ志の棹乃取もはるはつらるる

後頼

繪嶋

磯浦崎

淡路

名寄

何らち清き浦磯のあきととる棚き少船りて

師頼

山家集

子鳥鳴絵嶋の浦ふきむ月と波はつて

西行

拾玉

旅糸ひつるまら清乃磯枕浪ふきと我涙の那

慈鎮

同

うきとめてゆれ衣とみろくろの浦乃燈火の舟

同

あまのつとめとて給ひくはなまのふりてまゝに
後成

名寄 舟中より淡路の浦と漕行の結ぶとみよの里方より小舟
仲心

紅葉のいづれあはれとてあつた給ひてはなれ
顯昭

正治 色々の結ぶの浦にけしきもあつた給ひてはなれ
龍光

名寄 洛東の志の松をいれてはなれ
顯昭

同 櫻咲繪進の里とむらさきとてはなれ
仲正

月清 浪の心結ぶの浦にけしきもあつた給ひてはなれ
後成

以集 阿らりするあはれの小舟漕行の結ぶとみよの里方より小舟
後成

夫木 ありけり浦の結ぶとみよの里方より小舟漕行の結ぶとみよの里方より小舟
後成

同 うづもともあつた給ひてはなれ
長方

同 薄くくもあつた給ひてはなれ
長方

同 舟中より淡路の浦と漕行の結ぶとみよの里方より小舟
龍光

同 玉津の浦にけしきもあつた給ひてはなれ
龍光

顔娃郡

薩摩

和名 顔娃郡

名寄 山崎の浦にけしきもあつた給ひてはなれ
龍光

氷室山

山城

類字

同 六月のあはれきふりてはなれ
顯仲

同 海の心結ぶの浦にけしきもあつた給ひてはなれ
顯昭

拾玉 白の結ぶの浦にけしきもあつた給ひてはなれ
龍光

同 ともあつた給ひてはなれ
龍光

月清 外へあつた給ひてはなれ
龍光

氷室山ゆきもあはれしおまへをなれさるる時あそびさる 定家

いさひけり衣のきりぬ 氷室山夕乃後のあはれし風 同

いじろ山ま風をゆき夕雲の梢の雪れ少あつりそ 家隆

少室山いひ契て思ほや夏れ氷乃削とちりらん 同

うちあそびきし花よさるる 氷室山まどくさつらりきり 顯昭

夏乃見照ひよ少ぼいじろ山さつらりあそびきり 定家

氷室山葉のなれ小春の栞田面ふふあつりさる 同

いじろ山ゆきら乃外やあそびらん夕乃の涼し堂花よ 忠度

冬にしら岩戸あひてさる少室山まどくさる 圓福也きり 俊成

春もさ夏もけぬれ氷室山まどくさる 同

山折やいさ雪いあそび氷室山まどくさる 同

せまへいゆきら乃氷あつりなれと冬れきり 同

さる今日影さるる氷室山まどくさる 行家

夏あれと雪氷ら少室山ゆきいれあつりきり 芝俊

一隔山

山城

或抄ニ一隔山山城国泉所
名ニテリトモ代澤ニ有同名

いさ山まどくさるる月夜よはあそびらん 妹のゆりらん 大伴

古のききもあそびきり山城まどくさるる我せり 家持

雪のゆれらん雪らん山城まどくさるる風のまどくさ 内連

一室山いさ雪れらん山城春の紅葉らん雪らん 家隆

いさ山いさ雪れらん山城雪らん雪らん雪らん 為尹

大野

同

藤原并秋枕ニ當國

柳と卯月さあじしふも平野の杜よゆらぐせり

二位
中將

七
七
抄

祢さくあひしり宮のゆきもたはるるもいもあはれ

夫本

祢山乃らつられさるるも平野の杜よちふたね

清補

あつらふみよのあはれはちりも平野の杜ののこせこれ

平野
祢
山

廣澤 池

山城

藻邊音野郡

家集

いろは乃池よりうら白雲よりうら風のははらけり

重之

六百番

あつらふみよのあはれはちりも平野の杜ののこせこれ

季彦

あつらふみよのあはれはちりも平野の杜ののこせこれ

定家

あつらふみよのあはれはちりも平野の杜ののこせこれ

經家

あつらふみよのあはれはちりも平野の杜ののこせこれ

有家

あつらふみよのあはれはちりも平野の杜ののこせこれ

兼宗

月乃さむ宮のあはれはちりも平野の杜ののこせこれ

隆信

月乃さむ宮のあはれはちりも平野の杜ののこせこれ

信定

月乃さむ宮のあはれはちりも平野の杜ののこせこれ

顯昭

月乃さむ宮のあはれはちりも平野の杜ののこせこれ

定連

月乃さむ宮のあはれはちりも平野の杜ののこせこれ

女房

月乃さむ宮のあはれはちりも平野の杜ののこせこれ

家隆

月乃さむ宮のあはれはちりも平野の杜ののこせこれ

西行

月乃さむ宮のあはれはちりも平野の杜ののこせこれ

慈鎮

月乃さむ宮のあはれはちりも平野の杜ののこせこれ

同

月乃さむ宮のあはれはちりも平野の杜ののこせこれ

同

月乃さむ宮のあはれはちりも平野の杜ののこせこれ

同

月乃さむ宮のあはれはちりも平野の杜ののこせこれ

同

月乃さむ宮のあはれはちりも平野の杜ののこせこれ

同

後三時

月清

林葉卷十五

五

廣瀨の泥夫木おぼろしく此年少りて月夜と夜曉乃う後集抄
日く少やとのちもあかしく水は河やとる廣瀨の泥花園

引手山

大和

八雲山抄并廣瀨富國

少き油らと引のめいお妹とまて山をたぐひきりしは人元
紅ふくくそみゆり少いまられしきよひのまはれお葉臥季
標らひまらりしれ郭と雲と常ととて入らん後集

一言神

同

類字

君と新はゆり一まれ神のま二心なき程ちあらん加茂氏久
な事と心あやと人と契るとて一あめりお孫まらん顯昭
清きあまると一まらぬ祈りまらんあつて思ひあらん登蓮法師

同
此物ひる君あつて心とてあまよひとあまめりてはせりたる有穂

廣瀨河 神

同

類字 和名廣瀨郡

ひろせ川神はくわりの清き瀬ふらちめてあま思らん吾名
廣瀨河流り乃沖れを流る水とそとてあま月夜の比西行
いづて神れ恵もといろせ河貴女あまてうを向んとまひ隆信
廣瀨川神はくわりの清きとて換く孫あ契りたれ後集抄
廣せ河の貴人乃あて神ははらひひまもあ中務
手向まは廣瀨神乃ひあつてこの園れ瀬もあはる現六

目晚野

同

類字

ひら〜野行とあつていとあはれに絶く妹と行〜とあ大納言

公世集一

六

氷室山

大和

大和の氷室山と云ふは、いじろ山と云ふは、青い山と云ふは、
家隆

檜原

山宮

同

敷字

五七
名寄
此山は昔より、山宮と云ふは、山宮と云ふは、
家隆

五七
名寄
此山は昔より、山宮と云ふは、山宮と云ふは、
家隆

五七
名寄
此山は昔より、山宮と云ふは、山宮と云ふは、
家隆

五七
名寄
此山は昔より、山宮と云ふは、山宮と云ふは、
家隆

五七
名寄
此山は昔より、山宮と云ふは、山宮と云ふは、
家隆

五七
名寄
此山は昔より、山宮と云ふは、山宮と云ふは、
家隆

五七
名寄
此山は昔より、山宮と云ふは、山宮と云ふは、
家隆

同
此山は昔より、山宮と云ふは、山宮と云ふは、
家隆

同
此山は昔より、山宮と云ふは、山宮と云ふは、
家隆

同
此山は昔より、山宮と云ふは、山宮と云ふは、
家隆

檜隈河

同

敷字

五七
此山は昔より、山宮と云ふは、山宮と云ふは、
家隆

同十二
此山は昔より、山宮と云ふは、山宮と云ふは、
家隆

同
此山は昔より、山宮と云ふは、山宮と云ふは、
家隆

同
此山は昔より、山宮と云ふは、山宮と云ふは、
家隆

同
此山は昔より、山宮と云ふは、山宮と云ふは、
家隆

同
此山は昔より、山宮と云ふは、山宮と云ふは、
家隆

同
此山は昔より、山宮と云ふは、山宮と云ふは、
家隆

同 川の海流 濃河の流らうて物もさう其の流のなる 家長

同 流てもいひ乃の海河はれめは遠物うららむむ文書のをえ 云継

同 夫本 建保 ひ乃の海河入りの宮をいふ貝川流出て物もさういふ 光俊

同 同 同 乃の海河の流らうて物もさういふ乃の海河と云ん 雅經

同 同 同 乃の海河の流らうて物もさういふ乃の海河と云ん 俊成

日根郡

和泉

六帖 大和物語 乃の海河の流らうて物もさういふ乃の海河と云ん 滋春

平松

同 藤塩

家集 年と種て多けさういふ乃の海河と云ん 兼成

廣田本森

漢神

捕津

新字

廣田社行合 乃の海河の流らうて物もさういふ乃の海河と云ん 廣宣

愚草 乃の海河の流らうて物もさういふ乃の海河と云ん 冬河内侍

同 乃の海河の流らうて物もさういふ乃の海河と云ん 定家

類聚 廣田乃の海河の流らうて物もさういふ乃の海河と云ん 隆信

猶も佛乃るを君代に海の波日吉の影を分るぬ 慈鏡

か祥より日吉の影をいぬらん 初書見

かゝる日吉の影を神として 世影の書凡

けりてせと照る日吉の影をい 普く人をねむ也きり

君代と日吉の影を けりて子年持おとれ浦浪

を けりて日吉の影をいぬらん

天々の影を日吉の影をいぬらん けりて日吉の影をいぬらん

月清 けりて日吉の影をいぬらん

影 けりて日吉の影をいぬらん

影 けりて日吉の影をいぬらん

影 けりて日吉の影をいぬらん

影 けりて日吉の影をいぬらん

影 けりて日吉の影をいぬらん

影 けりて日吉の影をいぬらん

影 けりて日吉の影をいぬらん

影 けりて日吉の影をいぬらん

影 けりて日吉の影をいぬらん

影 けりて日吉の影をいぬらん

影 けりて日吉の影をいぬらん

影 けりて日吉の影をいぬらん

影 けりて日吉の影をいぬらん

影 けりて日吉の影をいぬらん

影 けりて日吉の影をいぬらん

影 けりて日吉の影をいぬらん

影 けりて日吉の影をいぬらん

影 けりて日吉の影をいぬらん

影 けりて日吉の影をいぬらん

影 けりて日吉の影をいぬらん

影 けりて日吉の影をいぬらん

影 けりて日吉の影をいぬらん

影 けりて日吉の影をいぬらん

彦根山

近江

全江國の終りよ東に筑者強はとそ人くい
乃くうううううううううううううううう
て糸つとゆりうううううううううううう
ゆりけかとき

夫木

同

ひと終山海まのうううううううううううう
うううううううううううううううううう
うううううううううううううううううう

経信

并録

日高拙

美濃

郡字

風雅

むと照と日そのねれ宮木ち志をうい新よ今うまはし

之後

一重山

信濃

陳注

名寄

玉吟

花はれ名れとぬきり一重山やふおさぬる花れとる雲
む乃ちれ衣ううううううううううううう

中務口

家隆

比刀祿河

上野

名寄三アリ

懷中

於よりぬるゆれ里人ちいと終川をち海くさる傍

平鹿

出羽

藤原并新聚三富國
和名平鹿郡

類聚

いてふかひしとれと終三ゆり敷乃あふ就考ととる也

之後

日義江

越中

陳注

万十七長哥

まのぬえ乃流行くくしゆりしとふのれ江とてぬ
乃志海さいたりとわりゆ鴨れとくく少海えり

美本

も深き春乃日暮舟浦波小鯛けりてそ縁さるる出り

中務
み

比治奇奈田

播磨

仁、キノナタ同前
勅撰名前集六備前入

万七

あつそ船出せしうさふとりひちまのあつそつらも

作者
不審

玉高亭

浮る小胸のしらくひたよふおれ灘とさうしり陸

家集

ありまきこひのあつそつらあつそつらあつそつら

伊藤

同

あつそつらあつそつらあつそつらあつそつら

忠見

同

あつそつらあつそつらあつそつらあつそつら

同

万代

あつそつらあつそつらあつそつらあつそつら

長方

夫才

あつそつらあつそつらあつそつらあつそつら

俊惠

同

あつそつらあつそつらあつそつらあつそつら

中務

同

あつそつらあつそつらあつそつらあつそつら

徳徳

同

あつそつらあつそつらあつそつらあつそつら

徳徳
不知

同

あつそつらあつそつらあつそつらあつそつら

惠慶
法師

題材

あつそつらあつそつらあつそつらあつそつら

雅親

万与

あつそつらあつそつらあつそつらあつそつら

中務
親

同

あつそつらあつそつらあつそつらあつそつら

中務
親

比々乃平

備前

長巻去首ノ海道記備前
内ヒト云所ニ泊リソレヨリ
クレホトニウレトニキナ

あつそつらあつそつらあつそつらあつそつら

あつそつらあつそつらあつそつらあつそつら

あつそつらあつそつらあつそつらあつそつら

あつそつらあつそつらあつそつらあつそつら

西行

比佐志山

備中

史本ニアリ

あつそつらあつそつらあつそつらあつそつら

隆持

山家集

史本

引嶋

備後

藤塩

百ひくはるの綱のうの縄はらうりあつてふさひとらけ
家集魚の浪の川端ふた巻きふもゆたたいさるきる地
同

氷室池

周防

丈本三當国

丈本凍みひじろの池も冬あつらふら吹風まおやとお強ん
同

人國山

紀伊

初撰名取集并
仙覚抄三當国

五七みまもあふぬふふ山は木葉ををれる心あつてし思
同
常かぬぬふ山の峰は神の杜あつてまふふふも
同

屏風嶽

同

名寄秋杭三當国

山家集屏風もやんとあつて思ひまん行老の冷り思ひこ海
同

右朝云云行者ゆり思ふとゆるとしつふふふ
ふふふふあり音れ山伏の屏風も思ふとしつふふ
ふふふふあり思ひてふふふふ
ふふふふ思ひてふふふふ

檜隈宮

同

類字

凡雅名草山鳥林のほふとせし林とふふふふの浪のま
同

檜原嶺

同

藤塩

山家集夕らまふひらの雲と越行ふまこゆふ山鳥林也
同

引津

筑前

類字

五七 梓弓引はのちる花はひまそい

人死

同十 梓弓引はれちる花のりうらむ嘆まそとをさねる也

無名

新勅 梓弓引はれちる花のりうらむ嘆まそとをさねる也

不知 徳人

一夜河

筑後

八雲山抄

現六 名はささねれちる一夜河とつりてさるる月水 顯成

拾五 下河ありとてささねれちる一夜河とつりてさるる月水 慈鎮

夫本 梓弓引はれちる花のりうらむ嘆まそとをさねる也 法九条

比礼振山

肥前

仙覚抄三當国

万五 松浦はささねれちる一夜河とつりてさるる月水 憶良

同 山の名とひつむやうとては娘の山はよひまこと振らん 後人

家集 さねてみつやねむ松浦のりうらむ娘のりうらむ山 家持

夫本 郭云はつとては娘のりうらむ松浦のりうらむ山 佐頼

同 松葉ちね松浦のりうらむ娘のりうらむ山 買家

同 白妙れひれちる花のりうらむ松浦のりうらむ山 有家

同 山は娘のりうらむ神とては娘のりうらむ山 定衡

同 松浦はひれちる花のりうらむ娘のりうらむ山 知家

比古山

三根

豊前

類字

玉葉 山は娘のりうらむ神とては娘のりうらむ山

懐中 山は娘のりうらむ神とては娘のりうらむ山

菱池

同

夫本三當国

ま本 其の國のひの泥をうまふは孫とてふとや妹の神治ふせん

續人 不知

日向

日向

廣瀬

詞花 けり孫の目よじりてを思ひ其の熱をれぬ御めとらん

引野

壹波

數字

古今 梓うひまけけら末つわのま思ふ人よこれ志せん

續人 不知

夫本 公のこり神れまらま津井ふまふと神も霧乃深らん

信九条

同 ぬれぬも長と思へつらんしに神れぬぬ小男藤丸也

後醍醐 長春

比多我ぬ磯

未勘

五十 ひとほり磯のわりのまふまふとらん海のまふまふとらん

名君

火焼鳩

同

名寄 思へともくひめとてせとを思ひらんひるまの海にたて海流ん

好忠

干瀉浦

同

類字

玉葉 くれまに鱈津は夕垣れひこの浦は雲乃神人也

為家

新干 海原や沖漕くれ父志乃干瀉津浦の川海らん也

伏見院

海法 夕けく目ひくく浦れいしはふまふとらんて思れもて

信札

廣橋

同

万十 ひろ橋をさるる孫て公の妹なりやうてまふもめで

人見愚

同

住吉物語 年を少れをさるる孫て公の妹なりやうてまふもめで

姫君

比古浦

同

中くは男よ恋ひいひの浦は筆とあはれとむらうらう

桃菌

山城

りうれふはゆりりうあな院屏風よ

拾遺

白妙乃妹う衣ふ梅乃花をとも香をとくえのつる貫之

金葉

桃葉のこもれもくも咲いづれ梅津はひあふあふとあらん

山家集

桃菌は花はゆふゆりうあな院のひまをうらむる散らする西行

庚橋

同 藻塩

かこりあきくよあふあれ曉よ鳴とももあふ思ひ孫とあけ

いけはもかばは海のともえれや庚橋とく人のりうあ

和泉 武了

百重原

河内

夫本三當國

うれあうりくうとほのまを恋ひあはれん花はあ

鴨長時

求塚

播津

藻塩

古乃小竹田あめれ妻さひらあひし女れ奥城たれ

若乃あれうあひし女れをいさよと海集とそれ秘の

はの上れ本乃なあひらうらうらあ男少いふ

りくめ海あまうあかる紫船のさひらあ女や喜のくあ

毛登目鴻

尾張

夫本ニアリ

俊成

夫木

白波れあらのこくくひつらめま水清也海六程

後人 不知

諸越原 里

相摸 藻江

家集

東海乃りる中里不織てろきぬちかれ衣しうん

路後

名あおつく虎や依人車流はありしうちろ臨城原

天基

青ららびりくそくしき差かてきくかもる法城原

名寄

ゆとる人何かまきりひくおれを流し近き諸越原

和号手羽目

あしや留さうくよまぶ強かたそくくさう法城原

百津嶋

同 同

万十四

りははらりうきまはらりあわめえるあふ島

諸葉山

常津 同

六帖

はらりしそりるれ山はくはた我山をよりそりん

史本

河かま流葉山乃河をわけてあまれ流行らん

裳羽服津

同

万九

乾るのよむ流乃山れんき津れを津の上まきりて

子傳連 史麻呂

百岡山

近江 藻江

懷中

いっこおろりきく山れ谷水乃流あきいさうは形

餅宮

同 同

家集

河れをいりらひ乃まきと守うふ津くと思ふを社形

同

わきとこいさうてしれをゆつはらよりらあれを使

傍重 佐和

諸神姫

同 類字

寛治元年海川院の山海大嘗会御紀方神

何ういれ文誌神心とよめは

古乃神代より後神の形はいふに若く代乃とあり 国房

りる神の心とよめは

後神れんふ今ううあかしをせりよと形はあは 孝経

守山

近江 郡守

海乃若小民乃幸てり山ふとてねれ生そりん 忠見

人めれとち山に鳴りよとを思ひし神とあり神ぬん 中務

露乃とと思ひけるふり山に紅葉とありは名は社あり 国信

川海乃原の本れり乃夕海あり山に下りて海に 信英

おれりる若く人目ち山にうらあの中と形はあは 定家

何とて神と推しおめて月影あり山にあり呼子とあり 伴融

鳴蟬乃海とて移りてり海山の志けりては海あり女あり 若柳

若く海あり守山れりてり二刀代とていりえ海とあり 僕人 不知

あうら神れ親のいふにりてり下りてり海にあり 疾海

あう神のりり山に下りてり海にあり 須江流

あう山にあり山にあり山にあり神とあり 行意

あう山にあり山にあり山にあり神とあり 定衛

あう山にあり山にあり山にあり神とあり 兵部 内侍

あう山にあり山にあり山にあり神とあり 知家

あう山にあり山にあり山にあり神とあり 行家

あう山にあり山にあり山にあり神とあり 康元

あう山にあり山にあり山にあり神とあり 為頭

新集 身よりぬれり心山隠れ下紅葉ありそわづらも時雨
草庵 夕ぐり影とともらんるる山隠れ下葉の影を露ととる也
妙受の
内合居
頼阿

喪山

羨濃

林乃百首 みるも山隠れ非れ代のもうりともさひ六洞せらつ
魚那

望月牧

信濃 勢字

家集 同 月乃約川流に影をれおろつてあてみてそそ有
伊勢

同 月乃山隠れとや出つらん日あつく思ふ望月乃約
兼威

同 月乃山隠れとや出つらん日あつく思ふ望月乃約
朝忠

同 月乃山隠れとや出つらん日あつく思ふ望月乃約
匡房

同 月乃山隠れとや出つらん日あつく思ふ望月乃約
仲実

同 月乃山隠れとや出つらん日あつく思ふ望月乃約
肥後

同 月乃山隠れとや出つらん日あつく思ふ望月乃約
佛光

拾玉 望月乃山隠れとや出つらん日あつく思ふ望月乃約
慈鎮

詠藻 東海や海乃山隠れとや出つらん日あつく思ふ望月乃約
同

名寄 志く代よ河ふ坂山隠れとや出つらん日あつく思ふ望月乃約
俵成

愚草 引渡る弱ういそ望月のも物れ茶やあつらん日
同

同 かくくはれあつらん日あつく思ふ望月のも物れ茶やあつらん日
定家

王吟 同 月乃山隠れとや出つらん日あつく思ふ望月乃約
同

千首 金板れあつらん日あつく思ふ望月のも物れ茶やあつらん日
家隆

新六 勢くちかとおやぬお坂れ冥よ入あかりらん月乃約
顯昭

公守天 月乃山隠れとや出つらん日あつく思ふ望月乃約
知家

相取の形れ文子の向小糸とては清水いよあよ望月の弱選登

同 けの坂や山ま出は望月の弱法師とては清水いよあよ望月の弱家長

山集 春の山ま出は望月の弱法師とては清水いよあよ望月の弱家長

新集 秋といふとては望月の弱宗長とては清水いよあよ望月の弱宗長

物圃山

上野

源経

丈木 いづちら物圃山俊舟とては清水いよあよ望月の弱俊舟

物思山

陸奥

同

六依 見て思ひし物も思ひし物とては清水いよあよ望月の弱赤人

六百番 年とて思ひし物も思ひし物とては清水いよあよ望月の弱顯昭

最上河

出羽

類字 最上郡

家集 りの山ま出は望月の弱家持とては清水いよあよ望月の弱家持

同 最上河いふ船のりよあよ望月の弱源順とては清水いよあよ望月の弱源順

同 りの川元補とては清水いよあよ望月の弱元補とては清水いよあよ望月の弱元補

同 最上河重之とては清水いよあよ望月の弱重之とては清水いよあよ望月の弱重之

同 最上河の滝同とては清水いよあよ望月の弱同とては清水いよあよ望月の弱同

六百番 りの川基俊とては清水いよあよ望月の弱基俊とては清水いよあよ望月の弱基俊

山家集 最上河有家とては清水いよあよ望月の弱有家とては清水いよあよ望月の弱有家

同 最上河西行とては清水いよあよ望月の弱西行とては清水いよあよ望月の弱西行

詠藻 最上河後成とては清水いよあよ望月の弱後成とては清水いよあよ望月の弱後成

名寄 りの川雅経とては清水いよあよ望月の弱雅経とては清水いよあよ望月の弱雅経

丈木 春の山具成とては清水いよあよ望月の弱具成とては清水いよあよ望月の弱具成

春ゆきてゆくゆりとも 梅は紅葉の山と越さるるや 七名

拾玉 くれおれより 出てうり 郭云お葉れ山のあゝぬれは 慈法

名宇 多らるいりみらる山れ物 多らるいりみらる麻や入らん 後鳥羽

千二百 ぬくあはれお葉の山と越行の方れとる 衣衣入てり 李 顕昭

夫木 又とらんお葉れ山乃木 入り多る秋の月をまきり 衣流

同 秋の月紅葉の山に 霜来て 梅より 外れ秋とみまら 衣流

同 長月乃紅葉れ山の夕 くれと多 日影も ちる海きり 定家

同 長月れみらる山の木 折はうめぬ 妻はあそを 編うよ 信実

時をゆり紅葉れ山を ちて夕日 ちるうお 花れね風 中務 親王

紅葉洞

未勅 類字

玉葉 花衣の所 美山のさうてり みるなり 九月と 柳あよ

百鳩

同

十首 多てくれ 庭ふきりなり 鳴れ 柳うつ 秋葉れ ぬる 為平

藤塩浦

同 類字

後古 ぬえいさり 浦れ夕烟 いく 柳は 思ひきり 藤 美徳

清和井

山城 藤塩

六帖 大原やせう井れ水と 小池て 考たけ ちるあそ 柳 家持

吉原 太くちやせうのあそ 柳あひて ちるあそ 柳 伴勢

千二百 鳥居てい ちるうらん 柳あそ 柳れ水と 思越きり 歌昭

夫本

林巻十五

五十五

大原やせり井れとまうとてはつちとほは涼とては

芥生里 山城 藻塩

山家集

拾玉

各字

夫本

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

好志

西行

慈信

後使

大寺

実成

孝通

行平

兼経

隆信

為顯

隆信

隆信

隆信

隆信

隆信

隆信

隆信

隆信

隆信

隆信

隆信

隆信

隆信

隆信

隆信

隆信

名寄 凡そ洗乃始ぬよ志事一ふ河や蟬乃小河は清きあふれ
又本 石川や蟬乃小河の流てう今もあふせあかぬはし 行家

禪林

山城

禪林寺にて時ををゆきて

新拾 世に静を考あるをきり郭ををきり多き林如く人
禪林をいんくゆりて山家秋暁といふころ
とよめか

前律師 永親

名寄 芳ゆけははららるるあれ虫の音も上れ無も静なる
新家

背河

遠江

名寄秋枕三苗園

名寄 くら川やせえれ水乃塵清きとむ里人の心をもろ
雅狂

右を明く記云く河のあひわう美川ありまの
川を急ぐそく西をうそはせ川といひ東をくく
河といふふを新とてとぬん

石花海

駿河

仙實抄云せりり六富士
少軒角侍水邊抄

五三長年 世の海と名付てあるもれ山乃はくめる海をうり川と名

勢奈河

同

建長の年毎日一箇中一ふ下流とて後河乃
困あてよめか

又本 せが川乃早瀬ひみきて新出の志流る洞あうん 為家

名寄 関屋里 下総 名寄 欽松二富国 或武列

房崎や角田河原に貝書あやむの里に宿やうしほ 光俊

開河 近江 野字

打海しほ接うあまの海とみちをきんぐの情

うららぬうらぬと実河の下れ海ひあゆめ

知ふせき乃小川にぬきりきぬのしほお葉あじし 狂歌

玉清 志つーそ小流れ流ぬぬしき月やうらぬおほの舟 法華橋

まふ 舟りゆりあはれを返すり海舟開乃小川れぬのうらぬ 宗隆

実川の流れ末の里にけりぬきをきりぬの葉あじり 馬家

同寺 同 藤地

名寄 法よゆきとこむは開ちち六乃るをわゆるうらぬん 衣笠

勢田長橋 同 中道

葉は舟れあつてゆきとこの橋あいてゆれとゆらぬ 兼威

同 しのきとの舟にゆきとこの橋あいてゆれとゆらぬ 同

拾玉 阿らゆやとゆきとこの橋あいてゆれとゆらぬ 顯仲

詠藻 西条は里れを流す葉あはゆのみてき方立海をよれを橋 慈徳

名寄 東條や日流乃みゆきとこの橋あいてゆれとゆらぬ 俊成

同 田上の山れ本葉あはゆあてき方の海りに秋風を吹 中務

同 田上やせよの海にちかてゆきとこの橋あいてゆれとゆらぬ 好忠

同 うち海にせよれを橋あてき方あてきりりするゆきの板

同 舟あてゆきとこの橋あてきりりするゆきの板 兼昌

同 引海に勢田れ本葉あはゆあてきりりするゆきの板 顯季

同 名寄 懐中
 びくしゆれ物しる書実山のゆいしら越てまきまらび
 同 名寄 懐中
 じくしゆれ人をもあまれ用しれ物川のゆいしら越てまきまらび
 同 名寄 懐中
 園乃山花れ枝村る物しらゆいしら越てまきまらび
 同 名寄 懐中
 相坂の雲乃しら物郭るあまらゆいしら越てまきまらび
 同 名寄 懐中
 志誠とふるの中しら越てまきまらび

源順

能宣

忠房

中務

開藤河

羨濃

刺字

名寄 刺字
 雲と多ておろし作吹の山風は物打あつじ雲れ若河
 同 名寄 刺字
 彩う一雲乃しら川雲まそと少まきまらび下むせむら
 同 名寄 刺字
 右河乃淵瀬とまきまらび下むせむら
 同 名寄 刺字
 今そ思ふ開の若河ゆいしら越てまきまらび
 同 名寄 刺字
 春の風しらゆいしら越てまきまらび

善光国

定家

好忠

為家

范宗

同 名寄 刺字
 ぬ流乃園不破れ中山雲消てまきまらび開の若河
 同 名寄 刺字
 吹捲て風いさきの山の端とまきまらび開の若河
 同 名寄 刺字
 流乃青雲の若河ゆいしら越てまきまらび
 同 名寄 刺字
 今河まらびはゆいしら越てまきまらび開の若河
 同 名寄 刺字
 使まらびとまきまらびとまきまらび開の若河
 同 名寄 刺字
 東流や心と越て流るれ浪乃花よゆいしら越てまきまらび

中務

康光

常盤

井入道

冷泉

入道

支資

為尹

開原

同

藤原并秋抗三當國 或越前

名寄
 鳴らひ鶯乃絲ひまきまらび行とやまきまらび開原

仲云

宵山

紀伊

勅撰名前集三當國 兩郡才次

名寄
 是の宵山とらては秋雲は紀伊の宵とまきまらび宵山

阿閉 皇女

須原山

山城

津邊

人々をいふ意との... 思ふ人

不知

菅原伏見

大和

類字

初瀬山夕日... 中官

持大丈

四方... 定家

季経

拾五... 同

同

始の... 同

同

中... 同

同

初瀬山... 同

同

菅原... 同

同

菅原... 同

同

菅原... 同

同

菅原... 同

同

菅原... 同

同

菅原... 同

同

菅原... 同

同

菅原... 同

同

菅原... 同

同

菅原... 同

同

菅原... 同

同

菅原... 同

同

菅原... 同

同

菅原... 同

同

菅原... 同

同

菅原... 同

同

菅原... 同

同

菅原... 同

同

菅原... 同

同

菅田池

大和 郡字 添上郡

し女子のささる池に葉葉心ふのちと花ほふきり 師光

垂霜ふおひさる葉の枯れしとささる池にほろろれり 同

あらしけりささる池にささるの葉葉てふ神のあまき 寂蓮

いひせんかゝる葉ささる池にほろろれり 光俊

あさる葉葉の池に花ささるの葉ささる 式子内親王

いほ姫れささる池に花ささるの葉ささる 為家

ささる池に花ささるの葉ささる 為顯

あさる池に花ささるの葉ささる 右京大夫

いほささる池に花ささるの葉ささる 風行

いほささる池に花ささるの葉ささる 急宗

いほささる池に花ささるの葉ささる 小室相

菅原里

同 類字

菅原里 石川

菅原里 良信

菅原里 名寄

杖社

同 藻怪

杖社 鏡倉

渚沙入江

掃津 類字

渚沙入江 有原

遷漂卷

住のほほ松の枝下へてあゝ松と云ふは葉が刈る松

大伴家持

同

住のほほ松の枝下へてあゝ松と云ふは葉が刈る松

若菜集

住のほほ松の枝下へてあゝ松と云ふは葉が刈る松

同

住のほほ松の枝下へてあゝ松と云ふは葉が刈る松

同

住のほほ松の枝下へてあゝ松と云ふは葉が刈る松

同

住のほほ松の枝下へてあゝ松と云ふは葉が刈る松

家集

住のほほ松の枝下へてあゝ松と云ふは葉が刈る松

同

住のほほ松の枝下へてあゝ松と云ふは葉が刈る松

同

住のほほ松の枝下へてあゝ松と云ふは葉が刈る松

同

住のほほ松の枝下へてあゝ松と云ふは葉が刈る松

同

住のほほ松の枝下へてあゝ松と云ふは葉が刈る松

同

あゝら松と云ふは葉が刈る松

元非

住のほほ松の枝下へてあゝ松と云ふは葉が刈る松

同

住のほほ松の枝下へてあゝ松と云ふは葉が刈る松

同

住のほほ松の枝下へてあゝ松と云ふは葉が刈る松

信明

住のほほ松の枝下へてあゝ松と云ふは葉が刈る松

同

住のほほ松の枝下へてあゝ松と云ふは葉が刈る松

同

住のほほ松の枝下へてあゝ松と云ふは葉が刈る松

同

住のほほ松の枝下へてあゝ松と云ふは葉が刈る松

元真

住のほほ松の枝下へてあゝ松と云ふは葉が刈る松

同

住のほほ松の枝下へてあゝ松と云ふは葉が刈る松

同

住のほほ松の枝下へてあゝ松と云ふは葉が刈る松

同

住のほほ松の枝下へてあゝ松と云ふは葉が刈る松

同

隆源

忠見

百

任吉乃岸れ小菰よ打きて波乃花さうらうら

同

浪の音いもくてもきく任吉の汀きく海流れ色

山家集

波小宮は月とけはゆりてせり候はくは任吉は君

同

ねくは波ふたつた方又海て静さい波留任吉乃松

拾玉

任吉のねれ子奉と志代といは建さうし静よさうか

同

任吉れき吹風と静さくは波流の氣文にり

同

吹物静代もくは任吉乃雲の流れ夕たれれさ

同

志代小宮くは任吉れねおきくははれ花

詠藻

公乃氣もはれうつさうつ月はくはあは任吉の後

同

任吉乃松と静くはあはれさうさくははれけの浦風

同

任吉くは乃志代はあはれさうさくははれけの浦風

同

任吉乃浦の海まはくはあはれさうさくははれけの浦風

新六

任吉乃浦の海まはくはあはれさうさくははれけの浦風

吹田

捕津

前乃れ静貴おかい海うらさくは吹田の家に序章

有海人ふ十首奇めさくははあてよ娘

後撰

川船さくはいしつらわあめ晴といくは宿と定めん

之上
天皇

吹田中十首奇めさくははあてよ娘

同

さくはれい子世も金あかしは浪乃ねむむさの静流は衣

吹田中十首奇めさくははあてよ娘

後古

我無い静あわら船れ水と静くは思ひ乃あはれは

入道
大伴

須磨

浦用海
上野

同

任吉乃静れは静さくはあはれさうさくははれけの浦風

同七

任吉乃海(常)はくはあはれさうさくははれけの浦風

大伴
家持

松崎乃浦まれば名をきくも人との浦人志やあへて

ありす海の浦りふらぬまうとよと海を海かひと思ふ人

うまめふらふまふれあふと思ひわくも海あつとよと海浦は

狭くはじむらひの中は海いれりしまんとよと海浦は

心ありてひくすれば海あつとよと海浦は

は海乃浦まをともち船人ちとてとよと海浦は

と海い〜とよと海あつとよと海浦は

舟と接んちとよと海あつとよと海浦は

あまれとよと海あつとよと海浦は

はのあれと海乃浦はつとよと海浦は

けあつと海い〜とよと海の浦まは海浦は

い〜と〜と海あつとよと海浦は

大進

小町

清三

能宣

兼國

信明

本真

兼蓮

信定

西行

兼鎮

同

同

拾玉

とゆれ浦見は海を沖おのる鴨は人の衣れううふぬけのこ 慈鎮

同

とゆれ浦見は海を沖おのる鴨は人の衣れううふぬけのこ 同

同

とゆれ浦見は海を沖おのる鴨は人の衣れううふぬけのこ 同

詠草

五月あつたまのほろもたえさらして煙うらをいそひぬる 俊成

同

五月あつたまのほろもたえさらして煙うらをいそひぬる 同

同

五月あつたまのほろもたえさらして煙うらをいそひぬる 同

名齊

播磨守と傳はるまきまいたはるぬるをきりぬる 同

同

播磨守と傳はるまきまいたはるぬるをきりぬる 同

同

播磨守と傳はるまきまいたはるぬるをきりぬる 同

同

播磨守と傳はるまきまいたはるぬるをきりぬる 同

同

播磨守と傳はるまきまいたはるぬるをきりぬる 同

同

播磨守と傳はるまきまいたはるぬるをきりぬる 同

同

播磨守と傳はるまきまいたはるぬるをきりぬる 同

月律

明石より浦はさし新なれもさし海もさしおの月をみぬ 俊成

同

明石より浦はさし新なれもさし海もさしおの月をみぬ 同

玉吟

五月雨の雲とぬると彩をいそげぬもぬえぬ海の浦人 同

同

五月雨の雲とぬると彩をいそげぬもぬえぬ海の浦人 同

同

五月雨の雲とぬると彩をいそげぬもぬえぬ海の浦人 同

同

五月雨の雲とぬると彩をいそげぬもぬえぬ海の浦人 同

同

五月雨の雲とぬると彩をいそげぬもぬえぬ海の浦人 同

同

五月雨の雲とぬると彩をいそげぬもぬえぬ海の浦人 同

同

五月雨の雲とぬると彩をいそげぬもぬえぬ海の浦人 同

家集

音に中つるものさし山河乃早くより我立流はる 躬恒

同

音に中つるものさし山河乃早くより我立流はる 同

同

音に中つるものさし山河乃早くより我立流はる 同

同

音に中つるものさし山河乃早くより我立流はる 同

同

音に中つるものさし山河乃早くより我立流はる 同

鈴鹿河 山 伴舟

とゆれ浦見は海を沖おのる鴨は人の衣れううふぬけのこ 同

末腹野

冬河

八雲山後并藤原富國

五十

梓ら末のくく舟の舟持する者あつたはあじと云

續後撰

七帖抄

名寄

夫本

同

同

同

駿河海

後河

類字

万十四

そはる海はよきうはつらふとれとれと母いさといぬ

新撰

名寄

夫本

新撰

角田河

河原

下総

類字

愚草

玉吟

同

月清

名寄

名寄

熊三孫とさうれ海乃濱つらふとれとれと母いさといぬ
吾かこれうふおんあつらうとれとれと母いさといぬ
急河の急河れ海乃濱つらふとれとれと母いさといぬ
身といふとれとれ海の沖つ浪とれとれと母いさといぬ

植柳

後光

宗良

定家

家隆

同

後集

光俊

顯季

万九 鳴乃河との漕と漕して塩津若浦今漕人 小舟
万代 沖は浪を鳴めり漕とくへふにぬぬ塩津若浦 長安
千首 心よりけいりれぬきおりのをむていふの塩津若浦 為尹

相森

近江

藤原云杖森杖村社 同前也

玉吟 夕緑梢を雁じ杖乃森な杖雪とく一里打の里 家隆
家集 夕暮つ今や杖之部云とて杖の杖け杖森 道信

菅野

同

夫木ニ當国

夫木 夏のおまれとて野のむらひく白ひらぬはぬり孝子の杖凡 慈鎮
同 杖凡よ若野乃藤乱あひて旅行人れ乃とていとも 匡房

菅荒野

信濃

野字

五百 竹流ららとれり野のむらひく白ひらぬはぬり孝子の杖凡 慈鎮
六百番 愈々のとすれ野のむらひく白ひらぬはぬり孝子の杖凡 慈鎮
同 人孤お若の意ゆれあゝぬぬ杖凡らとていとも 匡房
同 みを月れとるの河の野乃杜鶴まるとて杖凡らとていとも 匡房
千六百 郭云はつとれり人東海やとるあゝ杖凡らとていとも 匡房
名寄 志られららとる意ゆれあゝぬぬ杖凡らとていとも 匡房
同 水見の若野の河の野乃杜鶴まるとて杖凡らとていとも 匡房
同 信濃の若野の河の野乃杜鶴まるとて杖凡らとていとも 匡房
同 なるらとる意ゆれあゝぬぬ杖凡らとていとも 匡房
同 志られららとる意ゆれあゝぬぬ杖凡らとていとも 匡房
同 幸とていとも杖凡らとていとも 匡房

祐子内 聖紀伊

家集

是清乃山昔よりまの君をいさへ浪さくたさし

信明

東れ山ゆへ人のちれみけの我をさるる思ふあへ

元真

六百番

末乃松まほよつていさあは山にの波を神よほせて

女房

山家集

松山の瀨へ海よりあつて蓮の池よのまよふ

西行

同

おめをほしそいひもほらぬぬはえおま末乃春山

同

拾五

春のまほは橋のたの川おて花の清はるまはれ松山

道法

同

契てもひりてされてまほ神の洞よつて末乃まの山

同

同

白のれ熱てうぶとみえはるる書ふれ吹をまはれ春山

同

同

表もも多しは海を思ふとて浪を神も末乃松山

同

録

うるとをり昔の末れ松山よはせとも思ひまへん

後成

明三

浪のゆとわつてまよふ思ふ清々夕立を海末乃中山

後平

月清

志ゆや君末乃松山にほふおれもまへる神のちよと

後藤

清集

浦らるる末乃松山雪あれをよりうとゆやを清ん

後翁

建保

やういと末の松山春乃ちよ今つとほはれぬは熱きり

頂徳院

同

今ハとてゆへし心れまられや屋よひの光も末れ松山

行意

同

ゆつさう末乃松山春はうきをまよつてはむの夕書

定家

同

まほふ末の春山浪さるははしと花れおるもやん

家衡

同

あらゆ終りあ乃神をほえて書初まの末れ春山

後成女

同

柳もあれ末の松山浪あつてつとさかあゆの序令

兵束内侍

同

海より末の松山にほはれむとまてもゆはるあうれ

家隆

同

月日さつ海あえわらん霞うぬもやうれ末乃松山

忠定

同

あらゆあはよりうのひめら末れ春山まよあらん

范宗

同

と末の松山にうねる白をまの絶てわらぬまはれ文が

行徳

同

春乃初末れ松山吹風にあまのほはれ花やらん

康元

宿世山

出羽

藤原當國

宿集
よき世山かといれむやの寄とてとていふ孫をたは
俊頼

珠別海

伊牧

能登

勅撰名所集當國
珠別郡

万十七
す乃海ふ約ひはて漕これる溪の浦小月照よきり
大伴家持

同十八
よの海去乃沖津みよこいさりてかこいふとよはひ
同

懐中
雲津よりすめりりひばう一船の沖漕さるあつてふ
仲夏

夫木
かほけいふよれは物の約あふひいふは神とてさるひ
同

いふさうよさ乃とらさとちり持てうあつ里つそく屋令
顯昭

同
表あもと海よりけつむうかいあつさるれは海き物ん
懐人不知

須藤末山

越中

藤原

万十七長行
よめみ乃流う浦れ山のよふ谷れはあはれとよお約は
大伴家持

名寄
谷乃穴のゆおさうてはま衣すよ海の山ふ好風を吹
夫後

夫木
妻あこい小廣の鳴るりあは衣さうまれ山の林れ夕暮
経平

相野

同 同

万十九
よき乃井のしとらる船よつらとらるきあし鳴んさり書
名

六百番
れ持ひらうやあらん松の野いさばとらる船よ好まさる也
名

菅山

同

八雲山抄

万十七
心にゆりふ事あつさるれ山流る船くのよあ海りあん
大伴家持

名寄
春ハ花面氣とがささ者の山みくたはつお花れさうか
衣笠

類聚
ちりそよ木葉乃里れう縁あつさるらそとれ山風
行家

嘗のりもむられまのけとよひみよとせぬ初まらうん 家隆

鳴ぬありんや里に終よきれ岩の巢立れ山勢と云 同

春くれんもむられ小野乃嘗のけりうの今う鳴る 伊家

嘗乃けりまこまうやあむり巢立の小野れま乃曙 長方

まねぬと今う鳴るむられ一巢立れ少母の嘗乃輝 後一条

子と思ふ巢立の小母の初れはらりもい雲霞鳴也 入道

さてもうれ巢立れ小野の春きて谷にるれ為嘗のけり 為尹

須賀多野 未勘

打ぬいもきふらむれ女節むらりの初にむらむらり 續人

裾野社

同

夏うくぬにきうかうまきうれむらけの下る藤 為氏

鈴野

同

知子鳴るるふまらうらまてはもあ海まむいされとん 俊成

薄野

同

そくあ母れみとりうまれ初を花かひくふはきて号け 六所門

枚谷

同

枚谷れ少ゆまのぞうきれ啼う春乃とあ一ぬくれ 實仁

法師

松葉名所和歌集第十五終 六字堂宗惠集

寛文七丁未 總正月吉日

二條通西尾町上村三良右衛門用板

掌中詩材拔錦
文家小笈

折本一冊 川口西洲先生作
全一冊 宇都宮野菴作

詩作作文ノ書坊間刻スル取甚々多シ然リトイヘ共
秘學其多端ナルニ迷トミテ真ヲトルカクシ此
二書ヤ歴代作家ノ緊要ヲアゲテ大ニ秘學ニ便リナ
ラシムサレハ室ニ入り堂ニ外ルトイフベキカ独リ學
問ノ難カラザル書ナリ

